

ひらく

●一点を支点としてひらく●窓・扉を
ひらく●道をひらく●口・目をひらく●
花がひらく●運をひらく●文化を
ひらく●インターネットをひらく●新
聞・本をひらく●講座・会をひらく

—— 未来をひらく、心をひらく ——

特集

うごく ふみだす

ひらく広場

男女共同参画について
小平市役所職員に聞きました

行ってみました
東久留米男女平等推進センター
フィフティ²

32

男女共同参画社会をめざす

特集 いぶくみだす



●社会の中で動くということは、誰かとつながることです。様々な考えを持った人たちが、接点をつなげて何かに向かって踏み出すことです。自分が自分らしく、社会の中で生きていくために楽しい仲間を作りたい。たとえ、わたしの人生が終わっても、その先に続く誰かの人生に豊かに関わっていきけるように、今動くこと、今つながることは、後に続く大切な人たちのために、小さな足場を作るのだと思います●



子ども∞幸せ円卓会議

inこだいら

子ども向け暴力防止リーフレット

子ども∞幸せ円卓会議 inこだいらの前身は児童虐待を扱った記録映画『葦牙』^{あしかば}を上映するために作った会です。集まった会員はそれぞれが別の活動が続けてきた人たちです。でも、どの会員も日々の活動の中で、母親の生き苦しさ、弱い立場の子どもに大きな影響を与えているという問題意識を持っていました。「暴力は絶対にイケナイといっても、現実に暴力を受けている子どもたちにとっては、あまり対策にはなりません」と代表の岩嶋さんは言います。

そこで、円卓会議のみなさんは子どもが自分で直接、暴力にNOと言えるようになるために動き出しました。朝日新聞厚生文化事業団の助成金を申請し、CAP（子どもへの暴力防止プログラム）の

講座や地域向け講演会を開催したり、会員同士で勉強会を開いたりしました。

昨年11月、その集大成として、小学生向けと中学生向けの2種類のリーフレットを作りました。対象にした子どもたちの年齢にに応じて、暴力は絶対にイケナイということがわかるように作られています。イラストとデザインはプロにお願いしました。



オレンジ色が基調の可愛いデザイン
大人といっしょに読めるように、中に会員の思いを
込めた手紙が入っています



携帯できるようなサイズで
チェックのリボンが印象的

作成途中で近所の子どもたちにあ案を見せて意見をもらいました。その時、裏面にある相談電話窓口を見て「ココへ電話をするようになったらおしまいだよね」と、いう子どももいたということです。

小学生向けパンフレットでは、フリーダイヤルという言葉は子どもたちに馴染みのない言葉だということがわかったので削りました。中学生向けパンフレットでは、ここにも「デートDV」という文字はないけれど、恋愛関係の中で起る暴力と説明しています。

リーフレットは青少年センター、子ども家庭支援センターなどの公共施設へ配布の予定です。

また、直接子どもに話しかけて手渡した方が効果的だと岩嶋さんたちは考えているので、リーフレットを使ったワークショップも開きたいそうです。新聞やテレビなどで、外国の子どもたちと比べて自己肯定感が低い、と言われ続ける日本の子どもたち。「一人でも多くの子どもたちが、∞（無限大）の幸せをつかんでほしい。そのためにわたしたちは、ちょっと話ができる近所のおせっかいなおばさんでありたい」と、岩嶋さんは話を結びました。

小平YMC

(四小メンズクラブ)

いつの時代もお父さんはヒーロー

かきねのかきねのまがりかど〜♪
童謡「たき火」の歌詞にある
ような光景や、たき火で焼いた
焼き芋を知らない子ども達が多
い昨今、小平第四小学校で「や
きいも大会」を開催するという
のを聞きつけ、わくわくしながら
出かけしてみた。

会場にはすでに準備万端のY
MCのメンバーと、焼き芋を楽し
みに集まった多くの子どもたち
とその父兄で賑わっていた。焼き
芋といっても、前出の童謡のよう
な落ち葉を掃き集めて…ではな
く、畑に掘られた大きな穴に炭化
した薪を敷き詰め、濡らした新聞
とアルミホイルで包んだ芋を並
べ、上から大量の落ち葉を投入
し焼くという大掛かりなもので、
焼く芋も100本以上だというから
驚きだ。この日も約40分で芋が
焼け、参加者全員で美味しくい



ただいた。

しかし、このYMCのメンバー、
妙に手慣れているし、超ワイルド
な焼き方といい、ただ者ではない！
さっそく初代代表の岸野さんと
現代代表の飯島さんにお話をうか
がった。

「もともとは屋上緑化プロジェクト
から端を発し、放課後子ども教
室レッツトライ!として、芋づく
りなどの農業体験や竹とんぼや凧
などの工作を、在校生のお父さん
を中心に行っている」とのこと。

現代代表の飯
島さんはイン
ターネット子
ども教室の担
当だったが、
次第に双方の
交流がはじま
り、参加する子どもが増えてい
たという。また、「インターネット
を仕事にしているお父さん達は、
実は趣味がアウトドアだったり、
子ども達に何かを教えたい、一緒
に何かしたいと思う子ども好き」と
いう点では一致しているんですと。



現代代表の飯島さんと初代代表の岸野さん
に子ども達に説明する様子(右)

お父さん達の会という飲み会
で終わったり、OBばかりになっ
てしまうなどの悩みをよく耳にす
るが、その点をうかがってみると、

「お酒を飲み
ながらの定例
会でもレジュ
メを作り、議
事録を残した
り、真面目：
なのかも」



YMCのギター教室に集まった(上
左から)岸野さん、岸野さん、富坂
さん、飯島さん、目標はバンド結
成&ライブ開催!

「できる人ができる時に、できること
をする。というスタンスが長続きの
コツ」だという。また別のメンバーは、
「主催する側の方がぜったい楽しい」
と笑顔で話していた。

いつの時代も子ども達のヒーロー
はお父さんで、いろいろなことを教
えてくれたり、助けてくれたり…、
ともに過ごした時間は宝物ではない
かと思う。こんな素敵なお父さん達
がいる四小の子ども達がちよっぴり
羨ましいと思った。

※YMCメンバー希望やお問い合わせは、
YMC_kodaira4owner@yahoo.co.jpまで。
ブログも随時更新中！
<http://ymc-kodaira4.cocolog-nifty.com/blog/>

handmade shop

malulani**

ママ友でネットショップをオープン

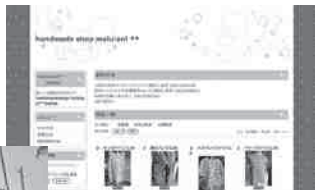
「これ売れるんじゃない?」と何
気なくいわれた一言から、ネット
ショップまで立ち上げてしまった
ママ達がいる。…と簡単に書き出
してしまっただが、

「売るからには!と最初にロククミ
シンを購入した」

「イベントで他の人の作品を見ると
勉強になる」

「今年の春夏はどんなテーマにする
か?」等々、インタビュアーや会議
での発言には感心するばかり。も
ともとは趣味で手作りしていたと
いうが、「作品が評価される」売
れることが何よりうれしい」と、
キリリとした表情で話す姿は、
自身の仕事に対する厳しさと作品
に対する自信に満ち溢れていた。

在宅で、夫にも子どもにも歓迎
され、自分のペースで稼ぐ。こん
なスマートな働き方が、これから
の主流になるのでは? と思った。



新しく雑貨店もオープン!
<http://malulani55.cart.fc2.com/>



2012年3月に6名で立ち上げ、現
在は5名。この日集まった(左から)
長岡さん、店長の渡邊さん、橋詰さん、
島山さん。

特集 こだいらソラー ふみだす



NPO法人

こだいらソラー

小平に太陽光市民共同発電所を

東日本大震災後エネルギーに関心を持つ人たちが増えたようです。ミニソーラーパネルづくりの講習会や自然エネルギーを扱った映画の上映会に人が集まるのを見ればわかります。

都甲公子さん（NPO法人こだいらソラー理事長）は、10数年前から太陽光発電機を自宅に設置し、自然エネルギーを増やしたいという思いから、市の地域エネルギービジョン作成の公募委員も務めました。3.11後、「二極集中の電力会社によりかからず自分たちで電気を作り出したい」との機運が高まり、任意団体「こだいらソラー」が立ち上がりました。会には、BDFを作る菜の花プロジェクトの会員や環境家計簿に取り組んできた人たちなど、エネルギー問

題に興味を持つ人たちが多く参加しています。

市は地域エネルギービジョンの中で、小平市を太陽光発電日本一に与え、市民出資型の発電所をつくらせると定めています。「それならつくろう」と、都甲さんたちは、事業化をすすめるために、昨年10月に「こだいらソラー」のNPO法人化をめざして設立総会をひらきました。（本号発行時には認証の見込み）



こだいらソラーのみなさん
20代の方から年配の方まで幅広い会員がいます。市民共同発電所のことを話すと、目がキラキラ輝いていました。

こだいらソラーのはじめの一步は、活動のシンボルとなる太陽光市民共同発電所を作ることです。

幸い、屋根を提供してくれる人が見つかったので、2月中に発電をはじめました。平成23年にいわゆる再生可能エネルギー特別措置法が成立し、発電した電気を一定期間は一定の金額で電力会社が買い取るという固定価格買取制度ができました。このことを弾みにして、市民に資金提供を呼びかけ、市民共同発電所第1号機を作りました。その後は第2号機に向けて賛同者を集める、と都甲さんは力強く話しました。

※詳細については、会へお問い合わせください。

【言葉の説明】

- ・小平市地域エネルギービジョン
平成21年に「次世代の子どもたちにつなぐ低炭素社会づくりの実現に向けて、小平市が策定した地球温暖化防止のための計画」
- ・BDF
バイオディーゼル燃料の略。生物由来の油や廃食用油から作られる
- ・菜の花プロジェクト
低利用農地を活用し、菜の花やヒマワリを栽培し（種を搾油することを通して）地域での資源循環を図る市民・農家・市との協働プロジェクト

こだいらソラー

電話 042-4671-2861

（夜7時～9時のみ）

ファクシミリ 042-4671-2951

Eメール kodairasolar@gmail.com

ホームページ <http://kodairasolar.wordpress.com/>



こだいらソラーのロゴマーク

こだいらソラーの会

動物たちのために

去年、わたしたち小平に住む動物たちにとってとても嬉しいニュースがあった。公民館がひらいた講座、「小平の動物愛護を考える講座」のちにやさしいまちづくり」に応募したメンバーが、講座が終わったあとも動物との共生の学習を続けるために、「こだいらソラーの会」を立ち上げてくれたんだ。わたしたちの家族計画にあまり関心を寄せてくれなかつたこだいらにも、やっとなつたわたしたちのことを本気で考えてくれるグループができた。何だかとっても嬉しい。

実はメンバーは、会を作る前から、動物たちのために心も体も



『ひろく』32号アンケートのあと、
ひろく編集部で話し合ったこと

■こんなに職員の協力を頂けると思っていたなかつたです。たくさん書いていただいで感謝です。政策を推進する立場にある職員の意見を聞きたいと思っていました。

■家事育児についてが多かつたですね。通勤途中や職場

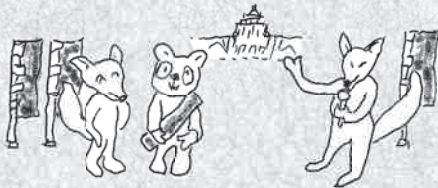
での様子も知りたかつたです。男性の育児休暇に関心が高いと感じました。

■実際は他者を思いやる余裕がなくなる人が多いと思うけど、そもそも対等な関係を作りにくい仕組みがあるのかもね。

■男女共同参画って家の中のことより、他人同士でこそ必要なシステムだと思えます。

■女性の登用で大きく変えるというなら半数はほしい。話題作りの段階です。

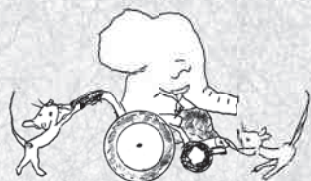
■なるほどと思う意見もある。けど、あれれと思うものもある。どの意見が男性のものか、わかつて面白い。



■意見を言い合ったり、コミュニケーションをとったりすることが大切だと思います。それが無いと進めません。

■家事は生きる基本だから誰もが当然やれないと困ることになるんじゃない？やらされるものではないでしょう？

■絵本で『男の仕事女の仕事』というのがあったことを思えば変わってきている。さすがに古すぎだね。



■全体の意識が変わっていくにはもつともつと時間がかかるのかも。次の世代につげない。

■誰もが住みよい社会になるまで。できることからだよ。

■何事も気づくことから始まります。きっかけに参画講座などがでしよう。

使ってきてくれたすてきな人たち。7匹もいた飼い犬がみんないなくなってしまう後に、野良猫たちがやってきて、自然に世話をするようになったというHさんは、犬や猫が生きていきやすい環境作りについて知りたくて参加した。とにかく犬と猫が大好きで野良猫や、ペットショップで売れ残った犬の現状に心を痛めているYOさん。猫アレルギーで、家では迷子の小鳥を飼っているKさんは、近所の仲間と野良猫を去勢や避妊させて、猫たちを地域猫にする活動を続けてきた。そして、ボランティア団体から、あずきちゃん(犬)ふじ子ちゃん(猫)を里子としてもらい受けたYAさん。



カワイイ犬や猫の写真が天井まで。昨年11月、中央公民館主催のサークルフェアに出展した時の写真



猫好き一族の家に産まれて、今も3匹の猫と暮らしているNAさん。動物愛護って動物というより、人間の問題なのかもしれないと思っているIさん。リタイアしてできた時間を動物が住みやすい世の中を作るために使いたい、というNOさん。講座は受けなかつたけど15年間一緒に暮らした飼い犬から、動物とともに生きることを教わったというSさん。みんなわたしたちとともに生きることを真剣に考えてくれる人たちばかりです。

会は立ち上げたばかりで、まだどんなことを始めようかと相談しているところだそうだけど、いろんなことをいっぱい、見たり聞いたりしてわたしたちと人間が、もっと幸せな関係になるよう、頑張つてほしいな。

男女共同参画について小平市役所職員に聞きました

平成 21 年 4 月に男女共同参画基本条例が施行されてから男女共同参画の考え方はどれくらい市民に浸透したのでしょうか。小平市民への調査は叶いませんが、次世代育成部の協力を得て、女性職員 25 名、男性職員 35 名にアンケートを実施し、延べ 4500 文字を超える文章回答をいただきました。

読みながら「男女共同参画」について考えてみましょう。



原稿をお寄せください

ひらくの記事や表紙の感想、その他なんでもOKです。原稿(500字以内)には〒、住所、氏名(ふりがな、原稿掲載は匿名・イニシャル可)、年齢も書いてください。採用された原稿は文意を変えずに短くする場合があります。

あて先 / 小平市小川町二丁目1333番地
小平市次世代育成部青少年男女平等課
「ひらく広場」係 FAX 042-346-9200
byodo@city.kodaira.lg.jp



ひらく編集室はあなたにひらいています。

私は長女長男の保育園の送り迎えを7年習しました。朝、春は朝食準備、私は洗濯物干しと行担しています。

新政権の党三役で2人の女性が登用されたこと。本当はこのような出来事がニュースでなくなるのが真に男女共同だと思えます。

「家族サービス」という言葉は使わない!! 日頃から家事子育てに馴わってれば、このような言葉は思い浮かばないはずです。

職業の名称が変わってきていること(看護師、保育士、CA等々) 男女共同参画かなと思えます。

退職した父が食器を洗うようになりませんでした。ささいなことですが。

家事を理由に春の行動を制限していない。大切なことは話し合いで決めている。

「主婦の仕事は…」と云わず、「家事をやる立場の方」などと言いかたを変えている。

日常の業務でも同じ内容の仕事を行うこと。特に荷物を運ぶ時など。



小平市青少年男女平等課

『ひらく』32号アンケート

あなたが普段の生活のなかでしていることで、「これは、男女共同参画かな」と思うことは何ですか？(これからしたいことや、ご自身のお考えなど何でも結構です。)

…やはり男性も家事の手伝いをすることが必要だと思えます。家事は女性だけがあるという考えを持っている男性が特に年齢層の高い人たちにいます。この考えを改めてお互いに行えることは助け合って生活していったほうがいいと思えます。

ゲイの方の意見をよく参考にしています。男女共同参画にはゲイの視点が絶対に必要だと感じています。

買い物で重い荷物等は夫が持つべきだと思うが、妻が持っていたり、家の電球の交換で天井が高くて妻にはとっかかないのに手伝いもせず、テレビを観ていた。要するに動いてお金を持ってくる以外は何もしない。

(母の世代は女性が自立するのが難しかったことを思うと…)。頑張ってるけど「お一人様」になった現実にはぶつかったときにふと男女共同参画かなあ？と考えたいしてしまいます。

夫の両親が介護が必要な状況である。「男女共同」ということを意識して行っているわけではないが私たちのみならず兄弟全員で担っていかないと乗り切れない。日頃から身の回りのことなど行担してそれぞれができるようにしておくことが大切だと身に染みて感じている今日この頃です。次は私の両親も控えていますから。

家庭の中に限定してみるとすれば、子どもたちには両親の仕事(家事など)についてはどちらか一方が行うのではなく、双方である日常を見せていくことで意識的な男女共同参画があるのでなく、意識なくても自然にそうやっていくような環境となる気がします。

この数年女性の社会進出はだいぶ増えたように思えます。…男性女性と言う前に一人の人間として同じように意見し、行動できる社会にあるにはまあ家庭の中から変わっていく必要もある気がします。まだまだの職場もありそうですね。

小平在住。在勤・在学の女性を訪ねて、そのいきいきした様子や元気の素を伝えます。

いきいき レディ30

触媒のような 不思議な力

齋藤啓子さん

(武蔵野美術大学造型学部
視覚伝達デザイン学科教授)



齋藤さんは、偏差値で大学に進学する風潮に迎合したくないと

いう思いと、表現することに興味があつて、美術大学を目指したという。「ミクロネシアの子どもの交流、アジア民衆演劇会議への参加、子どもの遊ぶ権利のための国際協会会員としての世界大会参加などは、自分の方向性を決定づけた」ともいう。初めて齋藤さんを見たのは、「展示の仕方」というワークショップだった。

訴えたいことを、言葉ではなく、実際に触れることができるものを使って伝える。そのものが持っている質感や歴史や具体的なポリウムを使って、見る者の100の言葉より1枚の写真のインパクトは、イメージを膨らませ、知らない人同士が知り合うきっかけを作る。だから、齋藤先生の講座では、とても自然にコミュニケーションの場ができる。

「例えば最初の授業の時、学生たち

は体育館に集まり線を体で表現します。手をつなぎ、からませ、飛び跳ね、紙の上に引いて行く不動の線ではない、自在な線を作るうちに、体で線を実感する。そんな作業を続けるうちに、いろいろな方法を使って表現し、伝えていくことを身につけていきます。」大きな目標を立てて、そこに向かつて無数の方法をクラス全員で試し、発見し、共有していく、そうしてその体験で得たコミュニケーション能力を、生活の中にデザインしていく。

道路拡張で切られてしまう校庭の大櫓をテーマに、小平十二小学校の子どもたちと学生たちが、一緒に考え表現した、ハンモックやけやきを見上げる小屋、けやきを巡る地図などの作品の中に、自由で主体的な発想を子どもたちから掬いあげた、学生たちの力を感じる。それはもちろん齋藤先生の授業で育まれたものだろう。

齋藤先生は少しも変わらないのに、とり囲む学生たちがいるんな色に変化していく。まるで触媒のような不思議な力が彼女にはあるようだ。



家事や育児に言及している人は、 女性の36%・男性の40%でした。 男性の育児休暇を取りやすくして ほしいと男性も回答しています

男女共同参画は、家事分担ではなく 考え方だと回答してくださった人もいます

家事を分担することが男女共同参画ではないように思っています。お互いに相手を尊重できることが大切なのではないでしょうか。

性別で染めつけないことが地味なようでイチバンの男女共同参画になっている気がします。

性別や年齢を意識し過ぎず、人として相手を思いやることを意識するようにしています。

うちの場合生活の全てです。

何気ない言葉や行動で無意識のうちに関係性があることをしてしまっている可能性はあると思います。「あたりまえ」と思っていることを疑って行動を見直すことが特に男性には求められると思います。

結婚してご主人がいる場合、やはり男性も家事の手伝いをすることが必要だと思います。

共働きで家庭が増えている中で女性(母)に負担(育児休暇、部分休暇の取得は主に母が多いのが現状)が大きい。男性(父)も社会的、職場的にもっと休暇(上記の)を取得しやすい環境が作られていけばいいのに、と思う。

家事分担。妊婦のため風呂掃除や重い物で屈んだり重いものを持たせないなど。

子どもの爪を切ったり、お風呂に入りたい時間がある時は積極的に育児に参加しています。

ひろく 示板

★男女共同参画推進講座の報告

☆DV防止啓発講座
(平成24年11月9日、17日)

身近な問題 「DV」について知ろう

講師 本村久美子さん、吉祥眞佐緒さん
(アウェア認定ファシリテーター)

夫婦など親密な関係にある男女に起こるDV（ドメスティック・バイオレンス）が若い男女の間でも増えていて、「デートDV」と呼ばれている。そこで、高校生や大学生向けにDVのことを知ってもらい、危険から身を守る方法を教える啓発講座が行われている。その講座を体験して、DVを身近に感じることができ、納得できた。

☆女性の再就職・就労支援講座
(平成25年1月19日、26日)

自分らしく働きたい

講師 小澤佳代子さん(尚モアフレンズ代表)

自分の棚卸し(客観的に自分を見つめ、長所短所を知る)から始まり、目からウロコの職務経歴書の書き方、面接のルール・プレイなど、実践的な講座だった。明るく前向きな講師の言葉に参加者からは「元気が出た」「モチベーションが上がった」という声が聞かれ、就職活動だけでなく生き方や働き方を考え直す機会になった。



ファシリテーターによるデート暴才

身近な問題「DV」について知ろう
～一緒にできるDV・デートDV～

11月9日(金)
時間:午後6時～8時
会場:中央公民館 第2会議室

11月17日(土)
時間:午前10時～12時
会場:小平元気村 大教室

参加費:無料
お申し込み:11/20迄
お申込み:042-346-9618

自分らしく働きたい
～女性のための就労支援講座～

1月19日(日) / 26日(日)

30分
時間:午前10時～12時
会場:中央公民館 第2会議室

講師:小澤 佳代子 氏
参加費:無料
お申し込み:11/20迄
お申込み:042-346-9618

★「小平アクティブプラン21」から

公共施設の建設でも 男女共同参画を進めています。

平成19年度から実施されている「小平アクティブプラン21」の第3章、第1節の「1 働く場における男女の機会の均等と待遇の充実」に、「男女共同参画に関連した入札制度の研究」を行うことが書かれています。

小平市では、平成23年4月から高額な工事発注や業務委託をする会社や団体の選考に「総合評価方式」を試行実施しています。その評価項目の一つに、育児・介護休業制度等の有無、母子家庭等への就労支援の取組みの有無があります。

育児・介護休業制度があり、母子家庭等への就労支援の取組みをしていると加点されますので、受注したい会社は制度の導入や取組みをするようになります。その結果、私たちの働く場の男女共同参画が進むことを目指しているのです。



いちど
来てみませんか?

小平市男女共同参画センター

ひろく

(愛称)

小平市男女共同参画センター

〒187-0031 小平市小川東町4-2-1

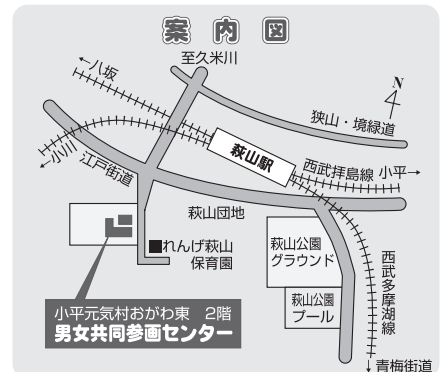
小平元気村おがわ東 2階

042-348-2112 (青少年センター兼用)

西武拝島線・西武多摩湖線 萩山駅南口より徒歩5分

※駐車場に限りがありますので、車での来館はご遠慮ください

- 開館時間 午前9時～午後10時
- 休館日 火曜日・年末年始・奇数月の第2日曜日
- 利用対象者 利用登録団体・個人
- 問合せ先 次世代育成部青少年男女平等課
042-346-9618



小平市男女共同参画推進実行委員は、市報「こだいら」で募集します。

★女と男の参画講座 「家族のために うごく ふみだす」の報告

第1回 ドリームボードで自分を知る！

講師 笠原ノリ子さん（心理カウンセラー）
（平成24年12月9日 男女共同参画センター）

雑誌から好きな写真や絵、文字などを画用紙に貼ってみると、不思議なことに一人一人異なる作品が出来上がる。そこに今の自分が描かれていて、自分で自分を知ることができるだけでなく、作品の説明をすると自己紹介になり、人とのコミュニケーションも深まる。ドリームボードは、何気ないようでとても役立つものだ。

第2回 家族になにかあったとき…

講師 笠原ノリ子さん（心理カウンセラー）
（平成24年12月16日 男女共同参画センター）

介護をする側、される側、互いの気持ちがわからない。それが高じると、孤立感に襲われ、うつになることもあり、家族間のもめごとが起こることもある。これを防ぐには、いろいろな人に介護の話を聞き、困った時は周りの人に助けを求め、毎日、笑顔をなくさないように暮らすことが大切。元気なときから、そう暮らしたい。

第3回 介護する家族も支えよう！

講師 森山千賀子さん（白梅学園大学准教授）
（平成25年1月13日 中央公民館講座室2）

家族を介護している家庭が5世帯に1世帯という時代、介護される人への対応に目がいきがちだが、介護する人の暮らしにも目を向けると、介護する人を支える家族や地域の人、社会へ介護の問題は広がっていく。多くの人が連携、協働して関わることで、介護される人も介護する人も豊かで尊厳のある人生を全うできるのだ。

第4回 家族の介護をどうする？

講師 星野真由美さん（小平市地域包括支援センター中央センター 保健師）
（平成25年1月27日、中央公民館講座室2）

家族の介護をする、といっても経験のない人は何をどうすればいいのかわからない。そんな人の相談相手になってくれるのが「地域包括支援センター」で、介護保険サービスを受けるのに必要な介護認定を受け付ける「居宅介護支援事業所」も教えてくれる。介護のことで気になることがあれば、地域包括支援センターに気軽に何でも相談してみるといいのだ。



表紙作品 「some neighbors and the rainbow eggs」 陶、流木 アーティスト 室 麻衣子（津田町在住） 写真撮影 長 塚 秀 人

金箔を貼った木のドロウングに陶でできた鳥が止まっているリーフ作品、「ここで誰かが目覚めた」を観た時に感じたエモーションな感情……。そう、すでにその時から私は彼女の作品に一目惚れしていたのだ。聞けば4年間メキシコで学び、2001年に帰国後も平面から立体、アニメーションなど様々な表現方法で精力的に作品を制作、展覧会もほぼ毎月途切れることなく開催しているという。

今号の表紙では、枝に止まった色鮮やかな鳥たちとたまごを選び、玉川上水そばの雑木林で春らしい1コマを演出してみた。実はこの雑木林、ほとんどが失われてしまうという。昨今、渡り鳥の中継地点としても、重要な場所であることもわかってきた林。人々の憩いの場所だけでなく、ここには多くの鳥や昆虫たちの命



が宿っている。たまごの作品がそれを象徴しているように思えた。（さ）

※上記ほか、室さんの作品はホームページでご覧いただけます。

<http://mmaiko.com/>

★子育て・女性相談室のご案内 ひとりで悩まず、 相談してみませんか？

☆生き方、働き方、仕事、家族のこと、結婚、離婚、セクハラ、DV（配偶者、恋人からの暴力）で、悩んでいるならお電話ください。

☎042-345-2415（女性相談）

◆月曜～土曜（年末年始、祝日を除く）
午前10時～午後4時

☆子育てがづらい、親子関係がうまくいかない、子どもの成長が心配、子どもをたたいてしまった、そんな悩みがあるならお電話ください。

☎042-345-2416（子育て相談）

◆月曜～土曜（年末年始、祝日を除く）
午前9時45分～午後5時30分

☆母子家庭の自立を支援するための資金の貸付、就労相談などを行っています。母子家庭で悩みがある方はお電話ください。

☎042-341-1211（内線2442）（母子相談）



『ひらく』の書棚



小平市男女共同参画センター“ひらく”にある本の紹介です。本は借りることができます。

『ポジティブ・アクション』法による平等の技法

辻村みよ子・著
〈岩波新書〉
800円＋税

日本国憲法で男女平等が謳われ、女性参政権が認められて67年も経った昨年の衆議院議員選挙で当選した女性は全体の7.9%、最初の選挙の8.4%も下回る結果だった。人口では男性を上回っている女性が国会では約8%。誰が見てもおかしい現実が長く続いている。

これを変えるには、何か強力なことをする必要がある。「ポジティブ・アクション」と呼ばれる措置がそれで、その方法はいろいろある。憲法学者の辻村さんは、日本国憲法に反しない、実質的な平等を実現する方法を紹介されて、「今こそこの措置への社会的合意を形成すべき時ではないでしょうか?」と述べておられる。

性別を超えて広く認識したい言葉である。

『社会人の生き方』

暉峻淑子著
〈岩波新書〉
800円＋税

1989年に「豊かさとは何か」

とは何か」を著した暉峻さんが、『書いてあることは全くその通りだけど、どうしたら豊かさを手に入れられるのかがわからない』という読者からの質問に答えた書。豊かな社会とは、自分も他人も同じように安心して暮らせる社会だ。それを手に入れるには、みんなが社会に関心を持ち社会人としての生き方を学ぶこと。そのために必要なのは教育と共感する心。格差社会や、国家の利益のために潰されそうになっている人々が、助け合うことで生活を取り戻している様々な例をあげて、本当に豊かに生きることが決して不可能なことではないことを気づかせてくれる。読み終わった後の希望が、力強く背中を押す頼もしい本だ。



『発達障害の子とハッピーに暮らすヒント』

4人のわが子が教えてくれたこと

堀内祐子+柴田美恵子著
〈ぶどう社〉
1,500円＋税

著者の堀内さん一家は長女がアスペルガー症候群、長男がアスペルガー症候群とADHD、三男がADHDという、超個人的な構成。壮絶な奮闘記が綴られているかと思いきや、自身の経験からのアドバイスに分かりやすく紹介され、最後のコラムでは「すばらしいプレゼント」と子ども達への愛に満ちた言葉で結んでいる。全ての親にオススメしたい育児本。



まんが『銀の匙(シルバースプーン)』1〜6

荒川弘〈小学館〉
419円＋税

畜産の現場がリアルに描いてあり、農系学生もあるある感たっぷりと言言



している青春学園物語。人間は生き物の命をいただいて生きていくことを、たまには思い出さないと。舞台は北海道の大蝦夷農業高等学校の酪農科学科。主人公の八軒勇吾君は進学校で勉強漬けの生活に挫折して、両親から逃れるようにここに入寮してきた。ペーパー上の知識と実体験のギャップは大きい。さあどうする。先生の一言についかなずいたり、畜産農家が抱える諸問題に共感したり。週刊少年サンデー連載中。

『団地の空間政治学』

原武史・著
〈NHKブックス〉
1,200円＋税

戦後の貧しい住宅事情から抜け出したい日本人なかでも結婚したての男女が憧れた、2DKの団地。他人の目を気にせずに生活出来る、きつちりと線を引かれたプライベートゾーンには太刀打ちできず。1956年の金岡団地を皮切りに東京、大阪と言った大都市の周辺に、四角く区切られた団地が増えていった。

そして、この巣箱の中で、人々はアメリカスタイルの生活を始めるのだが、この自由を求める日本人にとっては、資本主義よりソ連や東欧圏の社会主義の方が理想的だったようで、団地内には自治会が結成され、運賃値上げの反対運動や、保育所の設置要求運動など、あまりアメリカ的ではない住民運動が盛り上がりつつあった。

団地の中を通り抜けていく、社会主義、民主主義、そして個人主義。変わっていく日本人の意識が見えるノンフィクション。



『ヒーローを待たなくても世界は変わらない』

湯浅誠・著
〈朝日新聞出版〉
1,300円＋税

題名の通り、ヒーローを待たなくても世界は変わらない。わたしたちが主権者だから「自分たちで決める」のが常識になる、と事例を挙げながら著者が静かに迫ってきます。

「多様な人たちの多様性が積極的に生かされる社会は、当然、多様な人たちの多様な参加形態が多様な形で保証される社会である必要があります。(本文から)」これはまさに男女共同参画社会です。



行って みました

東久留米男女平等推進センターフィフティ²

多摩地域でいち早く、2000年に男女共同参画都市宣言をし、「世の中はフィフティフィフティで行きましょう」とスマートに動いてきたセンターを訪ねました。



正面の通りから見て全面にガラスが入っていて、中の様子がわかります

■ 市民参加で運営

フィフティ²（フィフティ フィフティと読む）があるのは、駅前の目抜き通りを曲がって数分のマンションの1階です。向かいには大型スーパーが、すぐ近くには市庁舎があります。センターは市の直営施設で、コーディネーターと専門員が配置され、公募市民による運営協議会もあります。「センターは、男女共同参画社会の実現を望む東久留米の先輩たちの努力の積み重ねです」というコーディネーターの言葉の通り、一歩づつ着実に動いて来ました。

25年間続いてきた情報誌『ときめき』は、公募で集まった編集委員の市民が、専門員や市と一緒に企画・編集をしています。『ときめき』は、今では貴重となったオールカラーの男女共同参画情報紙です。現49号ではセンター紹介の特集を組み、50号(今年3月発行)ではこれまでの歩みを振り返るということです。



情報紙『ときめき』49号

12ページ、全ページカラー、年2回、各4,000部発

■ 課題に取り組む

センターでは、20代、30代の人たちに足を運んでもらうにはどうしたらよいか、と頭を悩ませ、いろいろ工夫しています。センターの事業に合わせて図書展示を行い、また図書館と連携して、子育て、介護、仕事で忙しい女性向けに「ぶっくろ ブックの読書会」を開催しています。司書のブックトークを交え、本を通じて日常のあれこれを語り合う楽しい時間だそうです。「シネマ de おしゃべり」は、シネマサポーターの市民と映画を選んで上映し、鑑賞後参加者同士でおしゃべりをしています。月1回、手芸をしながら交流する「クラフト・カフェ」も開催しています。センター主催の企画講座の他に、市民が企画・運営する「市民企画講座」も平成24年度は、6回開催されました。



会議室。
隣にあるロビーと続けて使うこともできます

■ 男女共同参画はゆっくりすすむ

センターの大切な事業の一つに相談業務がありますが、フィフティ²の相談室は予約制で専門のカウンセラーが様々な相談にのっています。

相談したいことがある場合は、ためらわずに相談する方がよいようです。センターに来て、本を読んだり、掲示物をながめたり、人と話したり、講座に参加したりしているうちに、「なんとなく変だなあ」と思っていたのは男女共同参画社会ではないからだ気がつくようになります。そして、自分で考えて決めることができるようになり、だんだん気持ちがラクになっていくようです。

「男女共同参画の拠点としてのセンターの役割とは何か、男女共同参画の推進は効率化という言葉では括ることはできない」など、わたしたちは時間が経つのを忘れて話し合いました。フィフティ²は本当に居心地のよい場所です。

東久留米市男女平等推進センター フィフティ²

- ◆ 場所 東久留米市本町3-9-1-102
- ◆ H P <http://www.city.higashikurume.lg.jp/kensaku/sisetu/sisetu/danjo.html>
- ◆ 電話 042-472-0061
- ◆ Fax 042-472-0053
- ◆ e-mail: fifty2@higashikurume-city.jp
- ◆ 火曜日、年末年始休館。午前9時～午後9時30分(但し、前日までに午後7時30分以降の会議室使用申請がない場合、開館時間は午前9時～午後7時30分になります。)

【行き方】

西武池袋線東久留米駅西口から徒歩8分
花小金井の西友前から
西武バス「東久留米駅西口」行き 本町三丁目下車バス停前

ひらくはココにあります。

男女共同参画センター「ひらく」、公民館(11館)、図書館(11館)、地域センター(18館) 福祉会館、総合体育館、児童館、健康センター、市役所1F・2F、東部・西部出張所、郵便局(17か所) 市内各駅(7か所)、八坂駅、萩山駅、東大和市駅

- 小川町 多加楽、手作りクッキーの店歩、商工会館、JA 東京むさし
- 小川西町 佐野商店、三田医院
- 小川東町 ギャラリー青らんぎ、長江宴、フレッドファクトリー 510、カフェ Air
- 上水本町 アトリエ・パンセ
- 津田町 ハタエコンサーン、ハーティハーティ
- 学園西町 ビューティーサロンサンローズ、百の豆木、梁里館、美容室ヘアアグラッシュ、鈴木小児科、本間歯科
ヘアサロンサンライズ、あかね薬局、床屋のけんちゃん
- 学園東町 日本堂文具店、梅の里、アクティブスタジオ、りそな銀行小平支店、おだまき工房、カシユカシユ、きそ歯科クリニック、ふく歯科、寝具センター丸新、美容室 Je
- 美園町 多摩済生病院、ラグラス、珈琲の香、POEM、永田珈琲、ルネこだいら、小平駅前クリニック、シャンブル、きらら事務所と広場
- 御幸町 ケアタウン小平
- 鈴木町 和菓子の玉川屋
- 回田町 ヴェルデ
- 大沼町 がすミュージアム
- 花小金井 上原薬局、風のシンフォニー、辰砂、公立昭和病院

編集後記

● 小平 YMC を知って30年ほど前のおやじの会でキャンプをしたことを思い出す。切符の手配から、食料や飲料の調達と調理、キャンプ・ファイヤーでの余興など、すべてを父親達が分担。子どもや母親達も喜んだが、誰よりも父親自身が他では経験できない楽しさを満喫し、やみつきになった。小平 YMC の皆さんもきつと。(K)

● 今号でも素敵な人たちの多くの出会いがあった。これからはほんの少しであって、うごき、ふみだして行きたい。(S)

● 男女共同参画社会への道のりは長い。だから、仲間と歩いていきたい。仲間はふえていくのがよいけれど、「こつでなければならぬ」は禁句。わたしたちは、ゆるやかにつながっていききたい。(ゆ)

3号 H10.11



座談会／子育てから
学ぶことは何ですか
アンケート／地域で
子育てしていますか

『ひらく』のあゆみ

こんな風に「ひらく」を作っていました

地域での子育てや活動を取り上げる一方で、22人も市民が交流のためにモンゴルへ旅をした時の手記を載せました。国連の世界女性会議の北京会議（1995年）から3年経った、この頃から小平市の男女共同参画は活発に動いてい

たようです。また4号で、言葉自体を知らない実行委員もいた、DVのことをいち早く伝えました。3号から1年に2回の発行となりました。市主催の編集講座の修了者から協力者として実行委員会に関わる人たちもいました。

4号 H11.3



地域でどんな
活動していますか
地域で楽しむ達人たち

★バックナンバーは、男女共同参画センター“ひらく”（小平元気村おがわ東2階）にあります。次世代育成部 青少年男女平等課にお問合わせください。

ひらくサポーターズ

男女共同参画センター“ひらく”の登録団体の中からその活動内容を取材して伝えます。



小平市男女共同参画センターを多くの市民のみなさんに知ってもらいたいと活動している団体が「ひらくサポーターズ」です。

■なりたち

ひらくサポーターズは、小平市男女共同参画推進実行委員の任期が終っても、ひらくを応援したいという気持ちを持った人たちが作った団体です。まず、広報誌『ひらく』を配布する活動を始めました。平成17年、小平市男女共同参画センター“ひらく”が小平元気村おがわ東にオープンしたのを機に、ひらくしゃべり場（月1回）

を開催するようになりました。しゃべり場は集まった人たちがテーマを決めずに、最近気になった話題を出し合って進めるおしゃべり会です。センターはジュータン敷きなので、小さなお子さん連れでもおもちゃ（センター備え付け）で遊ばせながら参加することができます。

■出前講座、イベントも

市の出前講座を利用して、11月12日には防災について市の職員から聞く、しゃべり場を開きました。言うまでもなく、市民の関心は防災にあります。が、何から手をつけてよいのかわからない、というのが現状のようです。防災課の女性職員は、そのあたりを自助、共助、公助という言葉で説明しました。市では現在、防災計画の見直しをすすめているところで

「暮らしをラクにする おかた

づけ講座」も開きました。年末ということもあり、片づけることに興味のある方たちが集まりました。講師は他のイベントで出会ったRAKUYAの戸田里江さん。「ストレスのない暮らしをラクにする整理収納方法を伝授します」と言う戸田さんの話に耳を傾けました。

■これから

「しゃべり場はしゃべるばかりではなく出会いの場でもあります」と代表の小林さんは言い、新メンバーを入れることと企画もの、それも動きのあるものを組み入れたしゃべり場を運営することがこれからの方向だ、と話しました。（T）



講師の戸田里江さん(右)と会場の様子



ひらく

第32号
平成25年3月発行

発行/小平市次世代育成部青少年男女平等課
☎ 042-346-9618 FAX 042-346-9200

企画・編集/男女共同参画推進実行委員会

広報誌『ひらく』部会

相京香代子 北川 紘二 笹尾かをる
佐野 里美 坂岸 真子 谷原 裕子
寺本 陽子

『ひらく』は男女平等な社会、だれもが生きやすい社会、住みやすい地域を作るために役立つ広報誌です。公募市民が企画・編集をしています。

再生紙を使用しています。